



豊中市教育センター  
〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600  
TEL 06-6844-5290  
FAX 06-6840-8127  
平成 21 年 (2009 年) 11 月 30 日 第 40 号

## 言葉の背景にあるもの

今年実施した夏期教職員研修会は、近年では最高の参加者数で会場はほぼ満席でした。私も、平田先生の講演を聞かせていただき、多くの学びを得ることができました。その中でも大変印象に残ったお話がありました。それは、ホスピスに入院している末期ガン患者のパートナーと看護師、ドクターとの会話です。

投薬されても一向に変わらず、「なぜ薬が効かないのか」とパートナーが尋ねます。看護師は丁寧に薬や病状の説明をしますが、次の日もまたその次の日も、毎日同じことを繰り返し尋ねられるため「クレマーでは？」と、その対応に困ってしまいます。ある日、ドクターにも同じように尋ねたとき、そのドクターが、「奥さん、辛いね。」とだけ答えられると、その場で泣き崩れ、二度と同じ質問をされなくなったというお話でした。

薬について尋ねていたけれども、実は、薬の効能や病状の説明を求めていたのではなく、なぜ自分の夫が末期ガンで死んでいかなければいけないのかと、現状を受け止めきれない苦しい思いが、その言葉の背景にあったのでした。どんな意味でその言葉を使っているのか、それをコンテキスト(事象の背景、文脈の前後関係)と言い、それを汲み取ることの大切さを、平田先生はお話されていました。

教育相談を担当していて、平田先生のお話に出てくるようなことを経験することがあります。

学校園という集団生活の中では、普段から気をつけていても様々なことが起こります。子どものけがや子ども同士のトラブル等々。日頃より保護者との連携を大事にされていても、保護者の不安や不満が、苦情として寄せられることがあります。時には怒りの感情の勢いで話をされる場合もあります。そんなとき、言葉通りの内容ではなく、言葉の背景にあるものは何なのか、保護者が一番伝えたいことは何なのかと考え、話をまず聴くことを心がけています。

多くの苦情の場合、

『自分の思いや自分の子どものことを、理解してもらえていないのではないか』

『自分や自分の子どもは、大事にされていないのではないか』

『自分の子育てが、批判されているのではないか』

などの思いが根底にあるように思います。

言葉の背景にあるものを考えた、コンテキストに沿ったコミュニケーション力をつけることや、カウンセリングマインドをもって子どもや保護者と接することは、自分の思いを受け止めてもらった、共感してもらったという思いを積み重ねることができ、大切な信頼関係づくりのポイントになることを再認識した講演でした。(大屋)



研究紀要(冊子)を

# 学校で活用ください!

教育センターでは、毎年各種の冊子を発行しています。年度ごとに、学校あて1冊または2冊ずつお送りしています。最近のものを紹介しますので、追加送付のご希望がありましたら、教育センター(情報・科学教育係)にご連絡ください。先着順に送付します。(但し数に限りがあります)

## 「パソコン研修の手引き VI」(平成20年(2008年)3月発行)

校内ネットワークの概要やセキュリティーサーバーシステムについて。またCMSによる学校ホームページの作成マニュアルも。個人情報を安全に保存したいときやホームページ更新時に役に立つ内容です。

## 「パソコン研修の手引き VII」(平成21年(2009年)3月発行)

校内LAN導入校で使えるソフトの解説です。「@発見島」(小学校)、「dbook」(小学校)、「わいわいレコーダー」(小・中)、「eライブラリ」(中学校)という4種類のソフトがありますが、いろいろな教科の学習で使えます。冊子を参考にぜひ授業でご活用ください。

## 「教育研究双書第54集 理科教育に関する研究(理科教材研修資料)」(平成21年(2009年)3月発行)

毎年先生方の参加数が多い理科教材研修の資料をまとめました。メダカやカイコ、プランクトン、サツマイモやジャガイモなど、理科の飼育・栽培、観察などの学習指導にすぐ役立つ内容がまとめられています。

# 理科展

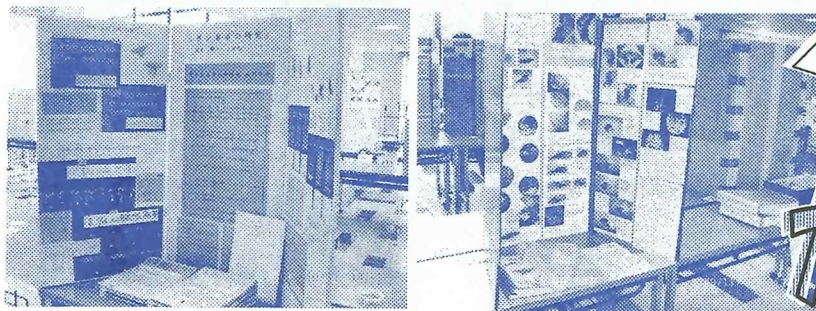
第55回小中学生理科展には多数の学校が出品くださり、ありがとうございました。また、今年は開催期間の5日間で、1500人近くの方にご来場いただき、大変うれしく思っております。

全出品作品437点のうち、小学校6点、中学校6点の作品を大阪府教育センターで10月31日に行われた「大阪府学生科学賞」に出品しました。

【出品した作品】「葉脈を調べてみよう」桜塚小5年内山晴香/「天気予想」蛭池小6年井上悠/「ぼくの昆虫図鑑」小曾根小4年西山浩暉/「めざせ納豆名人」東豊中小4年岸岡真伽/「紙作りPart2」東豊中小6年巖翔太/「私の家のメダカの好みと性質」刀根山小6年中井由梨/「『タンポポの研究』—冠毛は何本あるか—」第四中夜間学級1.2.3年寺内トシ子ほか36人/「アリの捕食行動」第十一中1年重定美月/「Key Factors for Beautiful Sky」第十一中1年橋本優衣/「蝶のりん粉」第十三中1年植松美晴/「ダンゴムシの行動の研究」第十三中1年早川潤/「消化酵素の研究～体内で食べ物はどう消化されるのか～」第十三中2年高木萌(敬称略)

このうち、第四中学校夜間学級の作品が、優秀作品として大阪府教育委員会賞を受賞しました。調べたことを大型パネルにしていねいにまとめた立派な作品でした。

大阪府学生科学賞の展示コーナーには、このように、調べた内容を、写真・図・実物・模型なども使ってわかりやすく表現した作品がたくさんありました。(大阪府教育センターにて)



(写真は昨年度のものです)

# 大阪府学生科学賞

# 実物投影機で大きく映してみませんか？

授業の中で、大きく映すとより有効なものは、どんなものがあるでしょうか？

教科書、ワークシート、辞典、辞書、地図帳、新聞、子どものノート、授業に必要な準備物の1セット、ものさしや秤の目盛り、分度器などの道具、写真、実験道具、実験の演示、楽器の演奏の仕方、子どもの作品、時には子どもたち自身の姿、等々…。

授業をするときに大切なことは、ICT機器の操作よりも、先生方の発問や指示、説明の方法等であることは言うまでもありません。ただ、そのときに何かを大きく映すことができたとしたら、より効果的な発問や説明などができるようになるのではないのでしょうか。



今年度、各学校に大きな画面のテレビモニターが数台ずつ配備されます。それと同時に実物投影機（書画カメラ）も整備する予定にしています。この2つの機器の組み合わせは、もっとも手軽で、しかも効果の出やすいICT機器活用であると言われています。パソコンがなくてもすぐに使うことができ、大きく映して子どもたちの興味・関心を喚起したり、理解の促進を図ったりすることができます。多くの教科・領域の授業で、子どもたちが自分の意見を発表する場面があると思いますが、子どもが自分のノートや作品をみんなに示しながら発表する、といった学習活動が可能になります。

どんなものをどのタイミングで大きく映すかなど、授業内容やその展開を工夫し、さまざまな活用方法を考えてみてください。

## 今後の主なセンター行事

【サイエンスカフェ】（センターHPにて申し込みを受け付けます）

日時：12月26日（土）10～12時 対象：一般市民等 会場：豊中市教育センター  
内容：『芳香・においと分子の微妙な関係』 講師：大阪大学総合学術博物館 上田貴洋 准教授

【研究協力員報告会】

日時：1月6日（水）13時～16時30分（予定）

対象：小中学校教職員 会場：豊中市教育センター

内容：・基調講演 奈良教育大学 小柳和喜雄 教授

『子どもたちがいきる授業のあり方とは(仮題)』

・報告会 各教科領域によるポスターセッション等

【サイエンスクラブフェスティバル】

日時：1月30日（土） 11時30分～16時 対象：一般市民等 会場：豊中市教育センター

内容：豊中市立中学校や、近隣の高校の科学系クラブ等が、参加者と一緒に実験をしたり、さまざまな実験を演示したりするブースを作ります。

ノーベル物理学賞受賞の南部先生のコーナー（手書き色紙等展示）も予定しています。

※サイエンスカフェとサイエンスクラブフェスティバルは市民対象ですが、先生方にもご紹介します。



## 心の成長

保護者の教育相談で、大人が一生懸命子どものために考えているのに、子どもの心の成長につながらない場面に出くわすことがあります。

子どもが他の子と同じようにできないとか、友だちとうまくかかわれない状況を目にすると、周りの大人は不安になります。「こんなことができないと、この先どうなるんだろう?」「こんなことをしていると友だちの輪に入れなくなるかもしれない」「子どものこういう所がよくないから、これをまず直さないといけない」と、悪い所を直して、教えてあげないといけないという気持ちになりがちです。

子どもに愛情を注ぐことは大切なことなのですが、逆に大人側の不安が大きくなり過ぎる場合、大人の焦りや不安が子どもに伝わることになります。そうすると、子どもは“こんなことができない自分は駄目かもしれない”、“自分はやっぱりやっていけない”と無意識に大人の不安を感じとります。残念ながら、大人の期待や不安を子どもに押しつけることになります。

このような時には、どうすればよいのでしょうか?

大人自身の心に不安(子どもの不安でもある)が湧き起こっても、「こうしたら」「こうしないと」という言葉や行動に移す前に、まず自分の心の中で一旦その気持ちを抱えて振り返ってみます。不安になるとできない側面ばかりが目についてしまいますが、そこをもう一度振り返ってみて、よくよく考えてみると子どもなりにやっている姿があるかもしれません。大人が不安を抱えつつも、安心できる側面(やっていけそうなこと、やれているところ)を探り子どもの様子を見ていくと、大人側の安心感が無意識に子どもに伝わります。子どもは大人に不安を抱えてもらいながら、安心感を感じ取って自分なりにやっけていこうとします。

子どもは、自分ひとりで対処できない不安や困難な出来事に出くわすと、周囲の大人と一緒に考えてもらい、不安な気持ちを一時抱えてもらうことで、乗り切ろうとします。そういう過程をたくさん経験しながら、大人の成熟した心の機能を、子ども自身の心に取り入れ、少しずつ一人で対処していけるようになります。そうして心が成長していきます。

私自身も教育相談の中で、相手の気持ちを抱えることになっているのか、自分の不安の押し付けになっていないか、常に吟味を続けています。(山本)

